

2025 年 1 月 18 日配布用

第 362 回 山口西田読書会 (=2024 年 12 月 7 日開催分) のプロトコル

小嶋 久之

テキスト「左右田博士に答ふ」範囲

309 頁最終行 「五」の初め「以上の考は「自覺に於ける直觀と反省」以来」から
311 頁 2 行 「知的自覺によつて可能なるのである。」まで

キーワードないしキーセンテンス

- ① 「自覺に於ては、考へるものと考へられるものが無條件に一である」(310 頁 3 行) と
- ② 「統一の純なる形式的言表が「私は私である」Ich bin ich であるのである。」
(310 頁 10 行)

問い

キーセンテンスとして挙げた②は、①を言い換えたと解していますが、その理解でいいのか。

佐野先生の解説の中で、西田はリッケルトの「私は思う(Ich denke)」を批判していると読みましたが、「私は私である(Ich bin ich)」との違いをどのように捉えたらえたらいいのか(表現より、その意図することの相違なのかも知れませんが)。

質問の背景

今回範囲は、重要な概念の言葉が羅列され、同じことを視点を変えて説明されているように感じ、手も足もでない状態です。敢えて、質問をすることで浮かんできたのがキーセンテンスとして挙げた文言です。

この問いも、問いとして成り立つのか不安もあり、チャット GPT に問い掛けてみました。話題提供として、結果を下記します。

- ・前者は認識の過程そのものに焦点を当ててるが、後者は自己同一性の結果に焦点を当てている。
- ・前者は認識論全般に適用可能な概念であり、後者は自己意識の核心を表す。
- ・前者はより深い哲学的考察を含んでおり、後者はその考察の結果を簡潔に表現している。
- ・「我思う、ゆえに我あり」を含めた三つの表現については、

「自己意識と存在の問題に取り組んでいるが、それぞれ異なるアプローチと強調点を持っている。これらの違いを理解することで、自己と世界の関係についての哲学的探求の豊かさを感じ取ることができるでしょう。」とのことでした。

違いを理解できるように心がけたいと思います。

以上